SHINKAWA

SUSTAINABILITY REPORT 2026

新川電機株式会社サステナビリティレポート2026

トップメッセージ

サステナビリティ経営の推進

新川電機は、計測・制御のスペシャリストとして、お客様の生産活動の課題を技術商社とメーカーの2つの機能を活用して解決する『技術ソリューション企業』をめざしています。最適な機器選定やシステム設計、ソフトウェア開発、電気・計装工事、現地試運転調整、保守メンテナンスなど、幅広いソリューションを一貫体制で支援し、現場課題を解決します。

デジタル化が進む中、データとデータを繋ぐ独自の製品・サービスを通じて高い価値を創造し、生産性向上や品質改善に寄与します。また、サステナビリティ経営の核として、社員が健康で活き生きと働き続けられるウェルビーイングな職場環境を追求します。

私たちは、新しい技術や思考を取り入れ、地域のお客様、世界のお客様の課題を解決し、環境・社会・経済の持続的発展をめざすサステナビリティ経営を推進してまいります。

新川電機株式会社
代表取締役社長
新川　文登

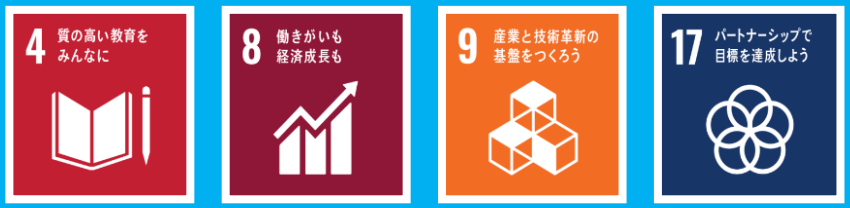
●経営戦略とサステナビリティ

当社は、常にお客様の目線で考え、次の3つの方針でソリューションビジネスを展開しています。

1. 技術開発力、モノづくり力、アフターサービス力を結集して、お客様に高い価値を提供する。
2. 振動専門メーカーとして、変位センサを開発・製造し、回転機器設備（タービン、コンプレッサ、ポンプ、工作機械など）の安全運転と予知・予防保全最適化のソリューションを提供する。
3. お客様の現場環境の改善と設備の安全、生産効率向上に貢献できる人材を育成する。

2020年度から全社規模でSDGs（持続可能な開発目標）プロジェクトを立ち上げ、以下の4つの目標を優先重要目標として特定し、社員自ら選定した社会課題をテーマに掲げ、職場や職種、役職に関係なく集まったメンバーでチームをつくり、主体的にSDGs活動に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献できる企業を目指しています。

優先重要目標



取締役執行役員　SDGs推進室長　田屋　将

●編集方針

ガイドライン

本レポートは、新川電機のサステナビリティ、SDGs、ESG（環境、社会、ガバナンス）に対する考え方と2025年度の取り組みなどを開示した年次報告書です。最新の情報については、当社のウェブサイトの中で報告します。

対象組織

新川電機株式会社
新川センサテクノロジ株式会社

対象期間

2025年度
（2025年2月1日から2026年1月31日）
ただし、一部には2024年度以前や2026年度以降の情報も含めて報告しています。

報告サイクル

年次報告として毎年発行

発行日

2026年6月（前回2025年7月）

2026年度よりSDGs推進室と健康経営推進室を統合し、新たに「サステナビリティ推進室」を発足いたしました。私たちがこの二つの組織を融合させた理由は、社会の持続可能性を支えるのは、他ならぬ「人」の力であり、社員一人ひとりが心身ともに健康で、創造性を発揮できてこそ、真に価値ある技術やサービスを生み出せると確信しているからです。

私たちの強みである計測・制御の技術で地球環境や産業の課題を解決すること、そして、その原動力となる社員のウェルビーイングを最高な状態に保つこと、これらは車の両輪であり切り離すことはできません。「技術」と「人」、その両面からアプローチすることで、新川電機はより強固で、より温かい、持続可能な未来への貢献を加速させてまいります。

執行役員　サステナビリティ推進室長　新川 剛史

田屋SDGs推進室長、新川サステナビリティ推進室長

教育による貢献①

ワークショップによる未来の技術者育成

小・中学生向けのものづくりワークショップ（体験型講習会）を通じて、未来の技術者育成に貢献します。

●現状課題

「2025年版ものづくり白書」によると、日本では少子高齢化による労働力人口の減少と若年層の製造業離れが深刻化しており、技術者不足に伴う技術伝承の断絶や高度な生産性維持の限界が懸念されています。

●取り組み

子供たちがものづくりや技術を体験できるワークショップを開催しています。2022年からは文部科学省が推進する「土曜学習応援団」に登録し、地域の教育団体と広く連携することに取り組んでいます。

●目指す姿

子供たちがものづくりに触れる機会を増やし、将来の技術者を育成・確保することを目指しています。

●2030年目標

- ●ワークショップへの参加者数　3000人（累計）
- ●2026年1月現在の参加者数　1,515人（累計）

●モノづくり体験①　～オリジナルのCDコマを作ってみよう！～

当社の得意分野である振動技術に子供たちが興味を持つきっかけづくりを目指しています。

プログラム

1. 危険予知訓練

子供たちの日常を描いたイラストを使用し、危険につながると思う箇所、その理由を参加者全員で考え、共有し、理解を深めます。

2. CDコマの製作

CDにおもりを配置し、コマの回転時間がどのように変わるか仮説を立て、計測して確認します。最後はシールや絵で飾った自分だけのオリジナルCDコマを作り、コマ回し大会を行います。

参加者の感想

- ●危険に対する考え方に触れることができた。
- ●おもりの有無で回転時間が変わる事が体験できた。
- ●楽しみながら技術にふれることができた。

●モノづくり体験②　～電気の専門家に学ぶ！かんたん電気工作でLEDをピカらせよう～

LEDが点滅する回路を作り、モノづくりや技術に子供たちが興味を持つきっかけづくりを目指しています。

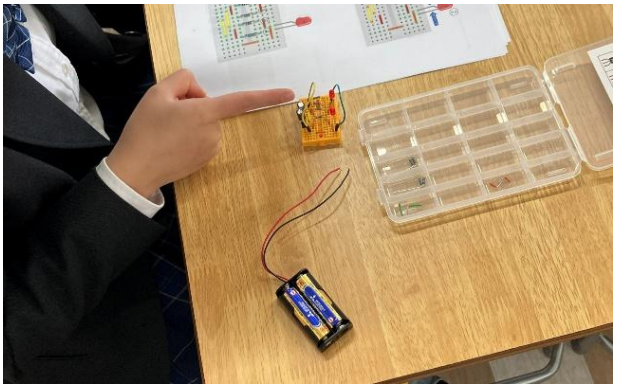
プログラム

1. 電気部品の紹介

LEDやトランジスタ、コンデンサ、抵抗といった基本的な電気部品をクイズを交えて紹介します。

2. 電気回路の製作

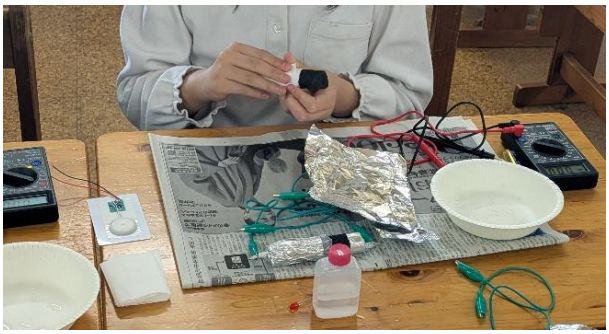
部品を差し込むだけで電気回路が出来るブレッドボード（実験用基板）を使い、LEDが点滅する回路を作ります。簡単な作業を通して、電気の流れやものづくりのおもしろさ、楽しさを感じていただけます。



参加者の感想

- 自分で作った電気回路が動いてうれしかった。
- SDGsについて家族で考える良い機会になった。
- クイズで電気部品の勉強が出来た。

●モノづくり体験③　～本物の仕事道具で遊んでみよう！テスター編～



プログラム

1. 備長炭電池の製作

備長炭と塩水、キッチンペーパー、アルミホイルを使って備長炭電池を作り、LEDや電子オルゴールがどのようにして動作するのかを確認します。

2. テスターの操作

備長炭電池と乾電池の電圧値を、仕事道具である本物のテスターで測定します。

参加者の感想

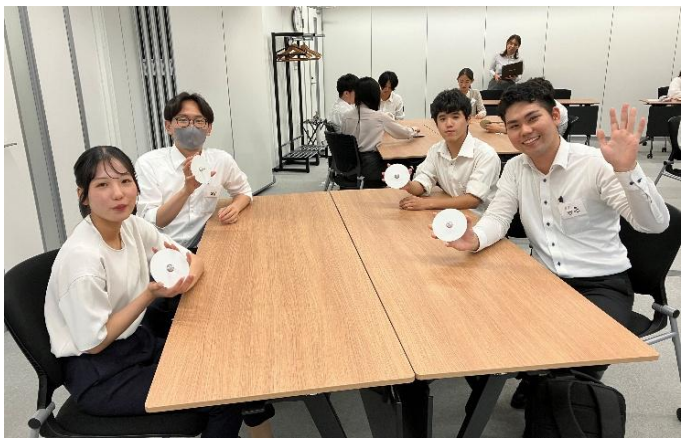
- 小さい光だったけど、電気がついて嬉しかった。
- 簡単に電池ができてびっくりした。
- 本物のテスターで実験するところが良かった。

●持続可能な活動に向けて

本活動自体も持続的なものにするため、次代の活動を担う人材を育成しています。新入社員を対象としたSDGs研修では、当社のSDGs活動を学び、実際に小・中学生に実施しているプログラムを体験します。

●ワークショップのお申込みはこちら

お問合せ・お申込みは、新川電機株式会社サステナビリティ推進室（メールアドレス：VE-SDGs@shinkawa.co.jp）までご連絡ください。



新入社員によるワークショップ体験の様子

教育による貢献②

インフラを支える次世代の技術者育成

新川電機は、計測・制御技術を活用して、電気や水道などのインフラ(※1)の安定稼働に貢献しています。また当社の技術者が講師となり、電気や水がどのように作られるかを体験する中学生向け職業探求授業を開催し、インフラの重要性を伝えるとともに、インフラを支える次世代の技術者育成に取り組んでいます。

●現状課題

経済産業省などの調査によると、電気や水道などのインフラは熟練技術者の大量定年と若手技術者の不足で危機的状況にあります。私たちの日常生活を支えるインフラの次世代技術者の育成が大きな課題になっています。

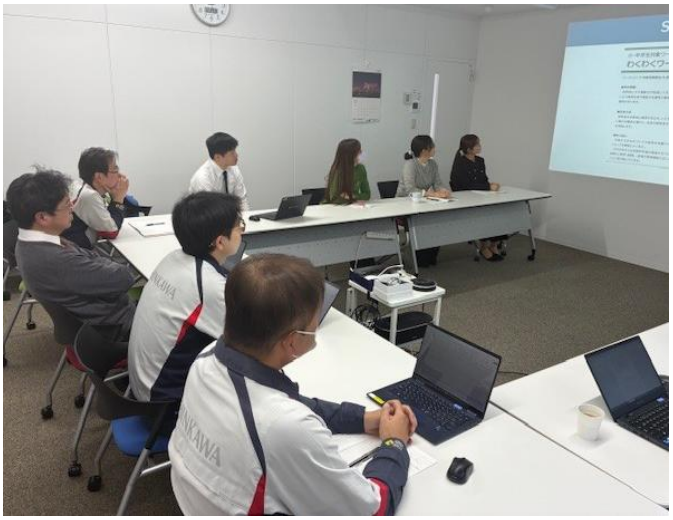
●目指す姿

将来にわたって、インフラの技術者を育成・確保していくため、子供たちが発電所などのインフラの仕組みを学ぶ機会を創出し、インフラや計測・制御技術への興味や探究心を持つきっかけづくりを目指しています。

●取り組み

子供たちがインフラの仕組みを学び、体験できる職業探求授業を開催しています。

また本活動を持続的なものにするため、講師人材を育成しています。新たな講師には、実際に発電所など現場見学や社内の各拠点で社員向けの職業探求授業を体験してもらっています。インフラを支える次世代の技術者育成のために、職業探求授業プログラムの内容と指導講師の質の向上に取り組んでいます。



社内での職業探求授業体験の様子

(※1)インフラ: インフラストラクチャーの略で、社会や経済活動を支える基盤となる設備やシステムの総称のこと。具体的には、電気、ガス、水道、道路、鉄道、通信網、公共施設などを指す。

●職業探求授業　～インフラを学ぼう！ ～

プログラム

1. 電気を学ぼう！

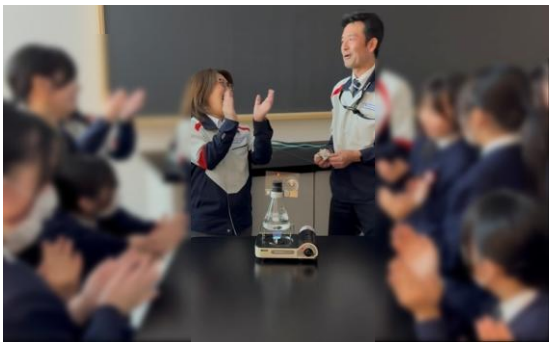
わたしたちの生活に必要不可欠な「電気」はどうやって作られ、安定的に供給されているのかその理由を参加者全員で考え、共有し、理解を深めます。

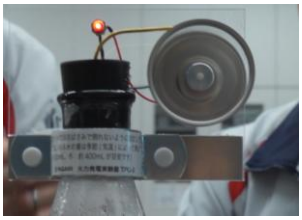
2. 火力発電の仕組みを知ろう！

熱せられた水が蒸気となり、タービンを介して回転運動エネルギーへ、さらに発電機を通して電気エネルギーへと変換される様子を、実験キットで身近に体感しながら理解を深めます。

参加者の感想

- ランプがついた瞬間、おおっ！となりました。
- 発電キットを使った実習が仕組みがわかりやすくて良かった。
- 再生可能エネルギーには、沢山の種類があってびっくりしました。火力発電のやり方なども教わって、とても勉強になりました。また、もう一度詳しく聴きたいなと思いました。
- 「電気について」で、一つだけでも機器やセンサーが壊れていたらつかないので、今ついている電気は全て壊れず繋がってついているんだなと感じました！





中学校での職業探求授業の様子

社員の学びと働きがいの向上に貢献

4 質の高い教育をみんなに

社員と家族のための社内電子図書館運用

社員とその家族を対象とした電子図書館を開設し、自己研鑽や図書を通じた相互啓発を支援しています。知識を共有し高め合う職場環境を構築することで、社員一人ひとりの働きがいのある人間らしい仕事(ディーセント・ワーク)の実現に貢献しています。

●現状課題

近年の日本では「活字離れ」が加速しており、文化庁の調査では1ヶ月に1冊も本を読まない人が62.6%に達したとの報告があります。当社においても読書機会が低い傾向にあり、業務遂行に必要な知識の獲得や思考を深める機会を創出する環境の構築が必要と考えました。

●目指す姿

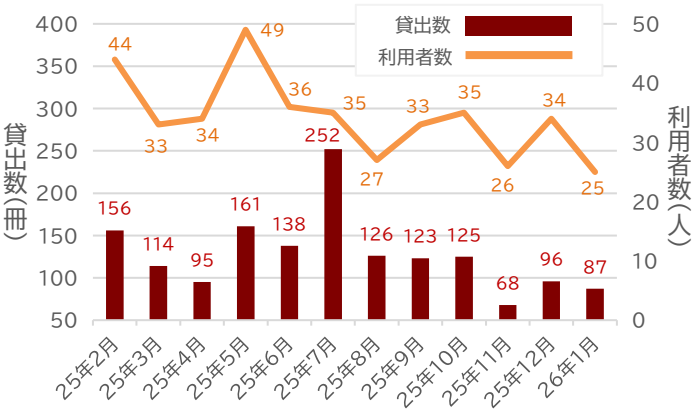
読書は、思考力・発想力・表現力といったビジネスの基礎力を育むだけでなく、多様な価値観に触れることで柔軟な視点や対話力を養う貴重な機会となります。

私たちは読書文化の醸成を通じ、社員一人ひとりが自律的に知見を広げ、思考力や発想力を高め続ける自己研鑽の場を提供することを目指しています。

●取り組み

2023年にビジネス書、実用書、小説や児童書など、多岐にわたるジャンルの書籍を社員の目線で紹介する社内ポータルサイト「井戸端図書館」を開設しました。2025年には社員から紹介されたおすすめ図書を実際に借りて読むことができる「井戸端電子図書館」を導入しました。年に数回、社員からのリクエストに応じて蔵書を拡充し、100タイトル以上の和書と5,000タイトル以上の洋書が揃う「雑誌読み放題サービス」も導入し、経済から趣味まで幅広い情報収集を支援し、自己研鑽の場を提供しています。

社内ポータルサイト「井戸端図書館」



井戸端電子図書館利用状況

図書委員による電子図書館運営会社メディアドゥ殿訪問

電子図書館運営会社との連携

社員からの蔵書リクエストや電子図書館の操作性向上に関する要望に応えるため、電子図書館運営会社である株式会社メディアドゥ殿と連携し、電子図書館の利便性を高め、社員の読書習慣を支える活動に取り組んでいます。

●社内電子図書館利用促進の取り組み

社内電子図書館の利用促進を目的として、定期的に読書イベントを開催しています。2025年は電子図書館を多く利用し、社内ポータルサイト「井戸端図書館」に図書紹介等を多く投稿した社員を対象に表彰し、賞品としてタブレットを贈呈しました。

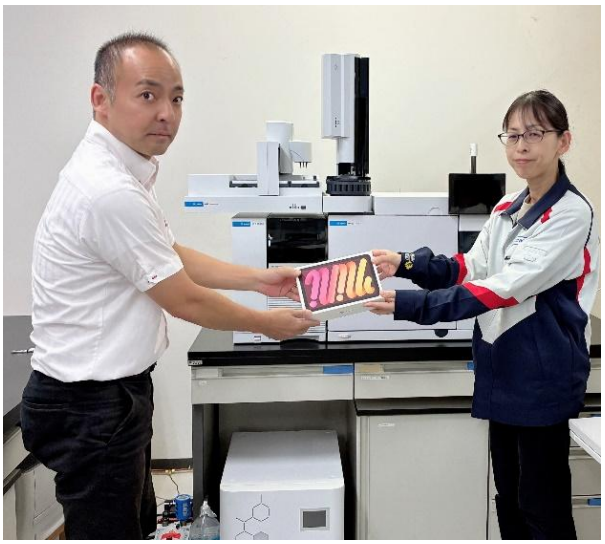
2025年社内電子図書館利用促進キャンペーン受賞者の声

1位：本の虫大賞　科学機器営業部員（写真右）

社内電子図書館のイベントはいつも楽しみにしており、2025年社内電子図書館利用促進キャンペーンで初めて1位になることが出来てとても嬉しいです。

私は、通勤電車内で本を読みふけり、電車を乗り過ごしそうになるほどの本の虫です。電子図書館のメリットは「いつでも、どこでも」、「借りて、読んで、返却できる」ことです。このメリットを活かして、たくさんの本を読みました。読んだ本の感想を共有できる社内ポータルサイト井戸端図書館にレビューを投稿すると、「いいね」やコメントをもらえて、本好きな社員と本を通じて繋がれる楽しさも体験しました。

キャンペーン期間中は普段手に取らないようなビジネス本や実用書をたくさん読みましたので、今後の業務に活かしたいと思います。



2位：本の虫銀賞 制御システムソフト開発部員（写真左）

2025年社内電子図書館利用促進キャンペーン期間中は、1日1時間を目標に読書と向き合いました。これまでニュースや動画を見ていた時間を読書に充て、多くの本と出会うことができました。例えば『エナジードリンク評論』や『猫は液体』といった普段は選ばないような本と電子図書館で出会い、読書の面白さを再認識しました。フィルターバブルに捉われず、手軽に多様な本に出会えることが、電子図書館の大きな魅力だと感じています。

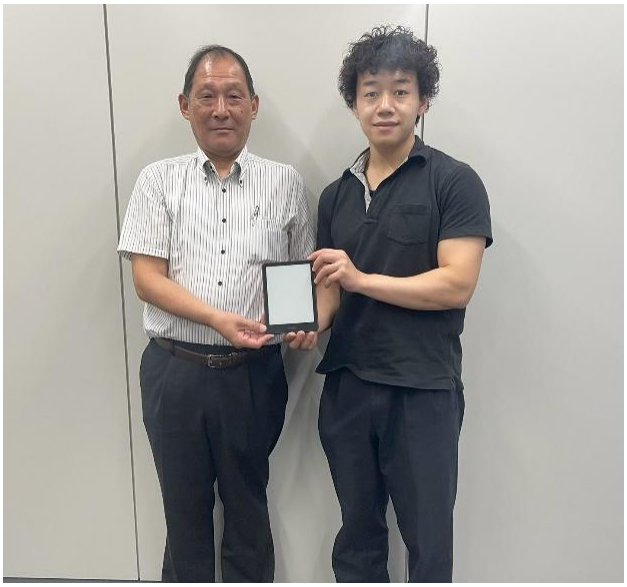
子どものお気に入りの絵本が電子図書館にあり、賞品のタブレットを使って一緒に読み、家族みんなで読書を楽しんでいます。

最後に、私のおすすめの本は「失敗の科学」です。この本から失敗は個人も組織も成長する機会だと学び、業務の上でも失敗時の迅速な報告・共有を重視し、再発を防ぐことを心掛けています。

3位：本の虫銅賞 中国エンジニアリング課員（写真右）

2025年社内電子図書館利用促進キャンペーンにて3位に入賞しました。 2025年4月に入社してすぐに電子図書館を利用し始め、本の面白さに気付くことができました。読み始めたきっかけは、公共交通機関を使って通勤するようになったことです。通勤時間を有意義に過ごしたいと考え、電子図書館の本を読み始めました。

本の良いところは、何も考えずに本の世界に入ることができることだと思います。小説だと物語の中に入ることができ、自己啓発やエッセイだと作者と会話をしているような気分になります。私は本の世界への没入体験から知識や自分にはなかった考え方を得ることができると考えています。これからも様々な本に触れて、いろんな知識や考え方を身につけていきたいと思います。



部署を越えた世代間理解と成長支援

「ちょこっとトーク」の推進

上司、部下、先輩、後輩が部署を越えて気軽に対話する機会を設け、世代間理解を深め、ともに成長できる環境づくりを推進しています。

●現状課題

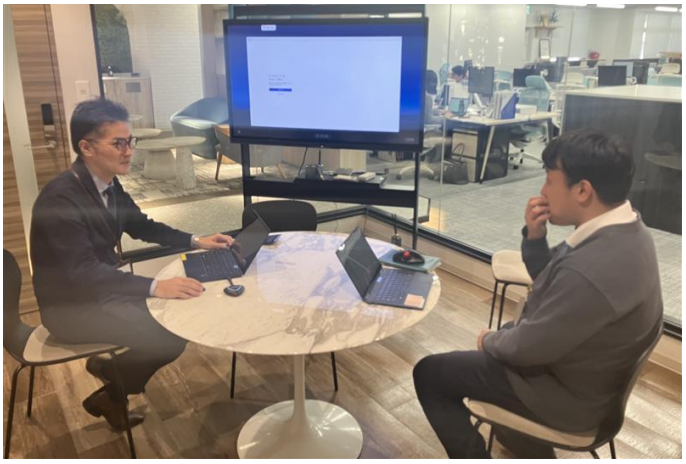
日常業務の中では、上司と部下がじっくり対話する機会が少なくなっています。業務上のやり取りはあっても、考えや感情を共有する時間は十分とは言えず、互いの価値観や状況が見えにくくなっているという課題がありました。

●目指す姿

業務や会社生活において不安なことを誰かに相談したいが、上司や先輩の話の輪に加わって良いのかわからないといった若手社員が抱えやすい孤独感を防ぎ、若手社員が安心して社内の人間関係を構築し、業務を通じた社会貢献に取り組める職場環境を目指します。

●取り組み

若手社員と上司が定期的に対話を行うイベント「ちょこっとトーク」を実施しています。 月に1回、15～20分程度で、あらかじめ用意されたトークテーマ（困っていること、業務における不安、お客様対応での悩み、挑戦したいことなど）から気になるテーマを自由に選び、リラックスした雰囲気で対話をします。正解や結論を出すことよりも、対話そのものを大切にする場にしています。

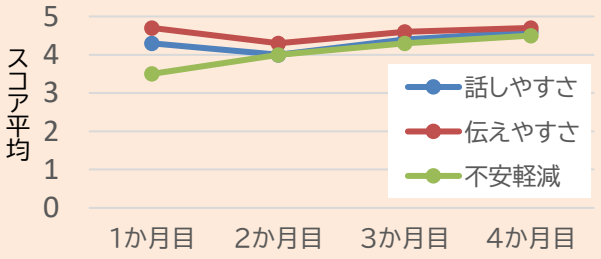


ちょこっとトーク実施の様子

●活動成果

ちょこっとトーク効果把握

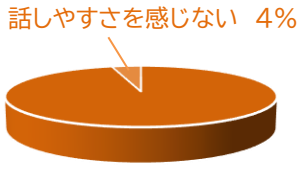
上司の「話しやすさ」「伝えやすさ」、トーク後の「不安軽減」を5点満点で採点し、満足度の推移を確認しました。



スコア平均推移

実施後のアンケートでは、「上司と話しやすくなった」「気持ちが楽になった」というポジティブな声が回を重ねるごとに増加しています。トークテーマは不安や悩みに関する話題が最も多く、若手社員の不安をキャッチアップする機会となりました。

ちょこっとトーク実施後アンケート結果



トークを実施することで上司との話しやすさを感じている割合が96%という結果になりました。

働き続けられる職場をつくる健康経営

社員のこころとからだの健康を促進

社員が健康で活き生きと働き続ける職場環境をつくることを健康経営方針とし、社員のこころとからだの健康を支える様々な取り組みを推進しています。

●主な健康経営の取り組み

社員の生活習慣病対策、メンタルヘルス対策、ワークライフバランスの充実に対し健康投資を行っています。

運動習慣定着化

健康管理アプリで歩数を競うウォーキングチャレンジ大会や野球大会の開催ど様々な運動機会を活用して、運動習慣の定着化と職場のコミュニケーション活性化に取り組んでいます。

食生活改善支援

全拠点で推定野菜摂取量を計測するベジチェック®を実施し、野菜摂取を促進する活動を実施しています。

卒煙支援

たばこに関するガイドラインを制定し、就業時間内の完全禁煙などの取り組みを実施しています。禁煙希望者には禁煙外来治療費の補助や禁煙補助剤の無償支給を実施しています。

●取引先との連携

当社は取引先や他社への健康経営支援や健康施策の共同開催、当社健康イベントへの招待を実施しています。これから健康経営導入を検討している方は、新川電機株式会社サステナビリティ推進室（メールアドレス：VE-SDGs@shinkawa.co.jp）までご連絡ください。

●健康経営の成果

2024年から大規模法人部門の健康経営優良法人資格を取得しています。

2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門

SPORTS YELL COMPANY 2026

オフィス環境の改善

社員のためのリラックススペースづくり

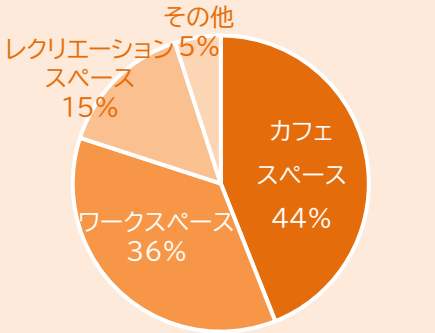
働きやすい職場づくりを目的として、社員一人ひとりの声を聞き、オフィス環境の改善に取り組んでいます。

●取り組み

「事務所内にリラックスできる場所が少ない」という声が多くあり、リラックススペースづくりに取り組んでいます。社員にアンケートをとり、どのようなリラックススペースを望むかをヒヤリングし、最も要望の多かったカフェスペースを採用しました。まず軽食付き自販機を設置し、手軽に軽食がとれるようになり、社員からは「コンビニに行かずに昼食や軽食が買えるので便利になった」「糖分が気軽に摂取できてうれしい」等の声が上がっています。今後はオフィス家具の選定等を行い、社員全員がリラックスできるカフェスペースを作っていきます。

社員アンケート

どのようなスペースが欲しいですか？



CO_2削減の取り組みに貢献

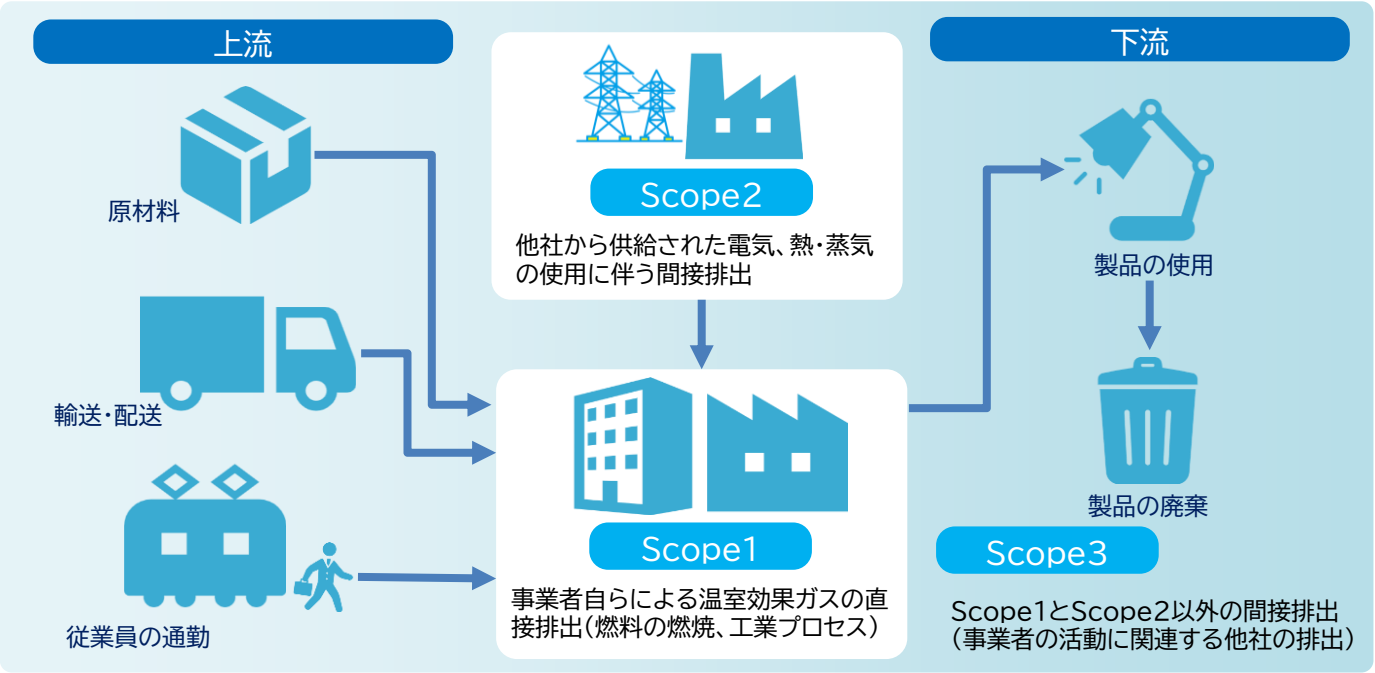
電力量の見える化から始める脱炭素支援

新川電機の環境DX（デジタル・トランスフォーメーション）サービスでは、工場内の設備や装置単位で電力量を測定し、記録データを無線でモニターへ送信することで、リアルタイムの電力量を見える化します。単なる省エネ活動からデータ駆動型の効率的なエネルギー管理へと高度化でき、エネルギーコストの低減やCO_2排出量に換算することで、地球温暖化や気候変動の主要因として考えられているCO_2削減に貢献します。

●現状課題

企業のCO_2削減に向けた取り組みにおいては、主に以下の4つの課題が考えられます。

具体的な削減手法の不足	サプライチェーン全体への対応の遅れ	エネルギー使用状況の可視化不足	導入コストの負担
CO_2削減への意欲はあるものの、自社にとって最適かつ具体的な削減プロセスを策定できていない現状があります。	自社による直接排出、間接排出にとどまらず、原材料の調達から廃棄に至るまでのサプライチェーン全体の排出量の把握と対策が大きな障壁となっています。	電力使用量の把握が不十分なため、どこに改善の余地があるのかを特定しにくい状況にあります。	省電力化に向けた最新設備や管理システムの導入には多額のコストを要するため、投資判断が難しいという側面があります。



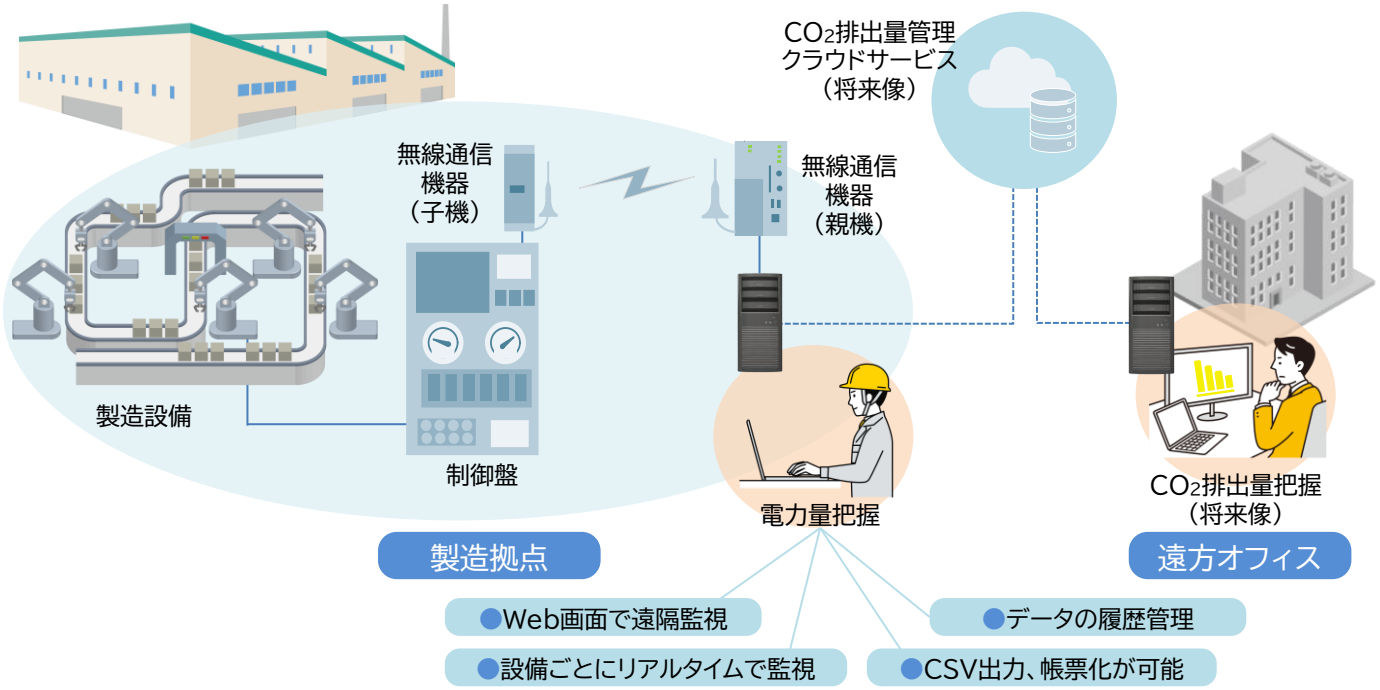
サプライチェーン全体のCO_2削減

●目指す姿

私たちは、脱炭素社会の実現に向けた価値ある支援を行うことを目指しています。まずは「電力量を見える化する」という明確な第一歩を踏み出せる環境を整えます。電力計の導入からCO_2排出量の算出までを一連の流れとして支援し、CO_2削減に向けた取り組みをスムーズに開始できる状態をつくります。当社の強みである電力計システムの技術力で、お客様企業にとって分かりやすく実践しやすいCO_2削減ソリューションを提供します。

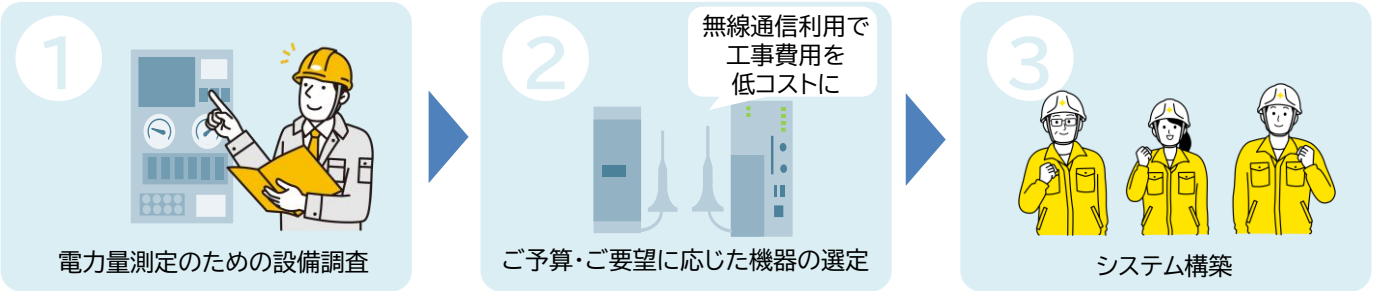
●電力量見える化システム

無線式電力計を活用した電力の見える化システムを開発し、ハード選定、設置工事、現地調整まで、当社がワンストップで対応する体制を構築しました。機械や設備の制御盤ごとの電力量を測定し、測定データを無線通信で収集します。将来的にはパートナー企業と連携し、CO_2排出量管理クラウドを通じCO_2排出量のリアルタイム遠隔監視を可能にします。



システム導入の流れ

電力量測定のための設備調査から、電力使用量を測定するための最適な機器選定を行い、システム構築を実施します。
ご要望に応じてCO_2排出量可視化からCO_2排出量の削減ソリューションのご提供までワンストップサービスで対応いたします。



新川電機のサステナブル活動

社会課題解決に取り組むSDGsプロジェクト

新川電機では、企業と社員の質の向上と社会貢献を全社方針に掲げて、ボトムアップ型の社会課題の解決に取り組んでいます。

●目指す姿

当社は、未来の地球と人々のくらしを守るためにSDGs（持続可能な開発目標）の社会課題を全社員が理解し、技術商社と振動センサメーカーの強みを活かした事業活動を通して、地球環境や地域社会、経済基盤などの社会課題の解決に取り組みます。

そのために、社会課題の解決に貢献できる人材の育成や製品・サービスの開発を進め、お客様や地域社会とのコミュニケーションおよびパートナーシップを積極的に進め、製品・サービスの社会価値向上を目指します。

●取り組み

全国の社員が職制・職種を超えて集まり、SDGsについて学び、どのように社会に貢献するかを考え、新製品・サービス開発や地域貢献事業、社会貢献人材の育成など様々なプロジェクト活動に取り組んでいます。

●成果

未来の技術者育成を目的とした小・中学生対象の技術ワークショップは小・中学校23校で開催し、全国の学校から申し込みの多い人気コンテンツになっています。

●プロジェクト体制

年度ごとにプロジェクトメンバーを新川電機グループ全社から募集します。集まったメンバーは、サスティナビリティ推進室の支援のもと、テーマ選定と課題解決に取り組みます。

2020年からSDGsプロジェクトを開始し、6年間の活動で82名の社員が参加しました。

●SDGsワークショップ開催

プロジェクトの新任メンバーを対象に、SDGsワークショップを開催しています。SDGsについて学び、様々な社会課題に対し何ができるかアイデア発想を行います。ワークショップで上がったアイデアからメンバーが取り組みたいテーマを選定してチームを作り、1年間のプロジェクト活動に取り組みます。

●今後の取り組み

2026年度、これまでSDGsプロジェクトを推進してきたSDGs推進室と、SDGsプロジェクトから生まれた健康経営推進室を統合し、新たに「サステナビリティ推進室」を発足しました。健康経営で社員の健康・安全を守り、SDGs活動で社員が働きやすい環境を作り、社会に貢献するサービス・取り組みを創造してまいります。

●サステナビリティレポート発行

プロジェクト活動の成果はサステナビリティレポートにまとめて公開しています。

2021年

2022年

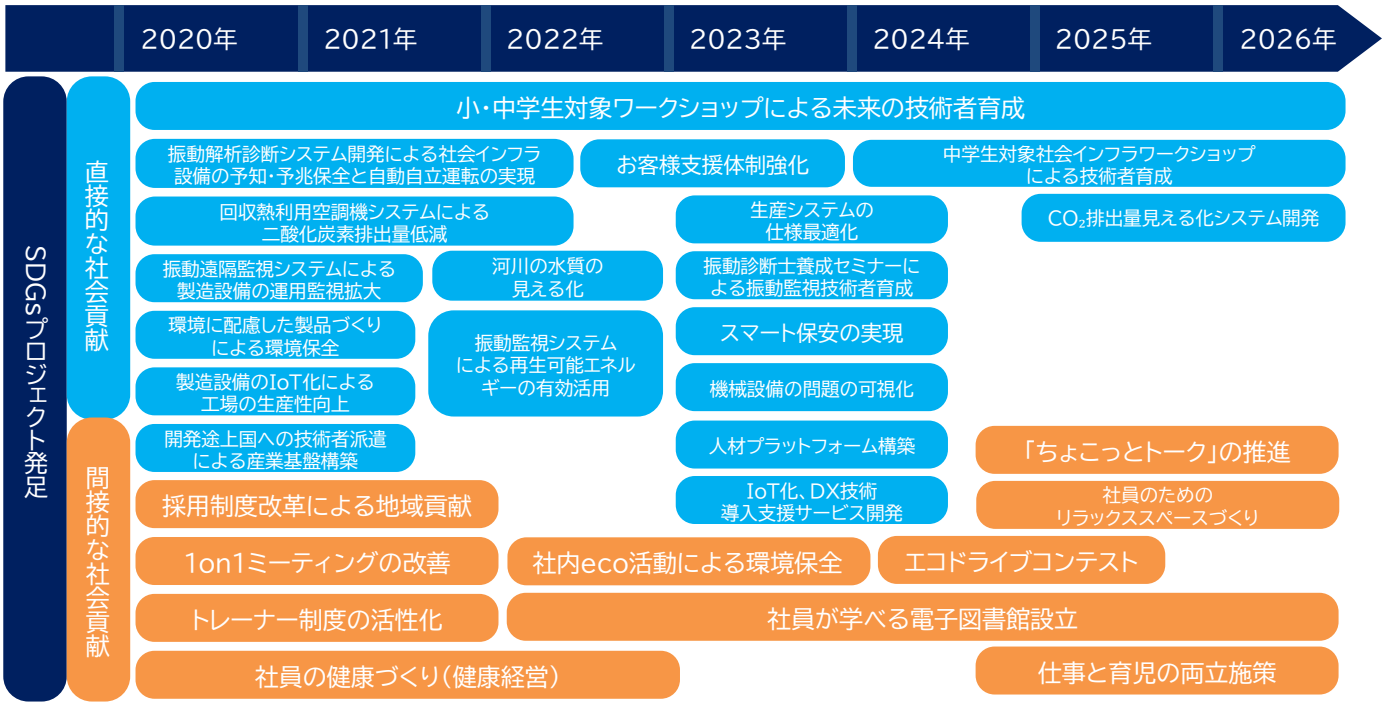
2023年

2024年

2025年

●取り組みテーマ

企業と社員の質向上テーマ11件、社会貢献テーマ17件の合計28件の活動テーマに取り組んできました。



会社概要

社名	新川電機株式会社
本社所在地	〒730-0037　広島県広島市中区中町8-12 広島グリーンビル7F
創業	1927年4月1日
設立	1951年11月2日
資本金	3億円
売上高	420億円(2025年度)
社員数	668名(2025年4月1日現在)
関連会社	新川センサテクノロジ株式会社 新進電機株式会社 株式会社エス・ワイ・シー SEC of America, Inc. SHINKAWA Electric Asia Pte, Ltd. SHINKAWA Electric of Malaysia Sdn. Bhd. SHINKAWA Electric of Shanghai Co., Ltd. SHINKAWA Electric Vietnam Co., Ltd.
経営理念	私たちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します
品質方針	顧客の立場に立脚した思考と行動
認証取得	品質マネジメントシステム(ISO9001:2015)取得 健康経営優良法人取得

2026年1月31日現在

新川電機株式会社

広島本社：〒730-0037 広島県広島市中区中町8番12号広島グリーンビル7F
東京本社：〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目3-3新麹町ビル3F
https://www.shinkawa.co.jp